



Disaster prevention Expert News

# 東北地方 防災エキスパートだより

2004.8  
vol. 3

発行:平成16年8月26日

東北地方防災エキスパート事務局 TEL.022-268-4454 (社)東北建設協会内

## 防災エキスパート「綱田政芳氏」が災害対策功労表彰を受けました。

東北地方整備局では、東北管内において地震、風水害、火山災害等の自然災害及び大規模火事、水質事故等による事故災害が発生又は発生のおそれがある場合に、それらの災害予防・復旧に顕著な功績があった個人及び団体を災害対策功労者として表彰しております。

今回は災害対策功労者の北上川下流河川事務所長表彰として、平成15年5月に発生した宮城県沖を震源とする地震及び7月の宮城県北部を震源とする地震に際し、災害の拡大予防・復旧に尽力があった防災エキスパート1名、建設会社・コンサルタント等23社が表彰を受けました。

その中で防災エキスパートとして7月に発生した宮城県北部を震源とする地震に際し北上川下流河川事務所の要請を受け7月26日地震発生直後より翌日27日まで事務所内及び鹿島台出張所にて情報収集、職員への対応方法の助言等を行い活躍しました綱田政芳さんが表彰されましたのでご報告いたします。

また、防災エキスパート事務局としては当時の活躍を感謝すると共に今後ますますのご活躍も期待したいと思います。



集合写真(前列左から3番目が綱田氏)



北上川下流河川事務所長より表彰を受ける綱田氏  
【写真提供:北上川下流河川事務所】

### 【防災講演会のお知らせ】

## ～「宮城県沖地震の災害に備える」の開催について～

平成16年10月19日(火) 宮城県民会館大ホール(入場無料)

主催:国土地理院東北測量部 後援:東北地方整備局ほか

### 講師及び議題

東北大学災害制御研究センター もとさか 源 栄 正人 教授

★「2003年宮城県北部地震と宮城県が作成したハザードマップ情報に関する内容」

国土地理院地理地殻活動研究センター 西村 卓也 氏

★「長町ー利府線及び宮城県沖のプレート運動等に関する研究報告」

仙台市消防局消防指令長 京 英次郎 氏

★「防災啓蒙と住民参加型ハザードマップ等の紹介」

ブレーカーは天井付近の高い所や、判り難い所にあることが多いので、日頃から確認しこのことを心がけるとともに、近所自治会などでも話題にしましょう。

「通電火災」 震災後のライフラインの復旧は、電気1週間、通信2週間、水道1ヶ月、ガス2ヶ月が目安とされ、先ずは電気、灯りが生活に求められます。ところが、阪神・淡路大震災では、通電時に倒壊した建物内部の電熱器から発火した火災が多数発生しており、避難などで家を離れる時はブレーカーを落とすよう消防、電力会社などが呼びかけています。

### 【通電火災】

防災  
用語

シリーズ I





# 雄物川水防演習に参加して

鹿子沢 一衛

6月5日、雄物川中流部の花火で有名な大曲市の河川敷において、午前8時30分から12時35分まで半日、流域市町村・水防関係者等約4,500名が参加のもと実施され、当方も湯沢河川国道事務所防災エキスパートの一員として参加しました。そこで、気がついたことに述べさせて貰いますと

- 緊迫時における事務所職員とのコンタクト（要点だけの会話）ができたこと。
- 何よりも災害の緊張感を持ちながら参加できたこと。
- 水防工法のおさらいと実践（当日は幹部の方へ積み土嚢工法の指導）したこと（当方は、酒田河川国道事務所以来7年目の体験でした。）普段理屈では、「あうだこうだ」と言うが、自分がやるとなると秋田音頭にもあるように「なかなか思うようにいかねもんだ」を改めて認識した。



川倉工

- 今回のエキスパートの出番は、開会式・閉会式・幹部への指導と3つでした。開会・閉会式での、隊列を組んでのかけっこは大変でした。閉会式では自衛隊の後ろであったため歴然と運動不足を感じた。（4～5mの間隔を保つことが出来なかったこと）式参加者が大人数だから大丈夫だと思っていると、後から大恥をかくことになり兼ねない。正面のスクリーンに映し出される。（式では目立つのがよく写しだされるから）。ヘルメット・長靴を着けてのかけっこは日ごろの訓練が必要。
- 演習に参加しない他エキスパートには何かの分担（駐車場係・受付等）等も考えられるが……

● エキスパートによる水防工法の実施（堤防上での）があってもよいのでは……

● 幹部による水防工法の訓練は、積み土嚢工法で土嚢造り・腕を組んで「イチ・ニー・イチ・ニー」と掛け声で中詰め土砂の踏み固めをし、会場から拍手喝采を浴びました。来年も是非必要と感じた。



幹部による積み土嚢工を指導する防災エキスパート

- 今回は、5日前にリハーサルを実施してよかった。（団体行動をとる演習は雰囲気はわかり是非必要。）
- 防災エキスパートの存在を、事務所職員だけでなく水防関係者にPRする絶好の機会と感じられた。
- 「礼に始まり、礼に終わる」水防演習は、日本の伝統文化として後継者にしっかりと引継ぎしなければならないものと感じた。

日頃、時間制限のない生活をしていて訓練の厳しさを感じたとともに、一方、災害時のことを考えればこのような訓練は必要だと改めて認識した1日であった。

たまたま、私の住んでる町内から秋田市水防団として参加した人から「さすが国でやることはスケールが大きいな」といわれ、また、当人も水防工法は実施したことがないから緊張したと感想を述べていました。

ざっぱな感想ですみません。……

## 編集後記

- ・ 網田さん災害対策功労表彰おめでとうございます。
- ・ 雄物川水防演習に参加した9名の防災エキスパートの方々には大変ご苦勞様でした。閉会式のかけ足では、少々足がもつれかけんでしたが、ベテランらしく終始立派なものでした。
- ・ 水防演習の内容は盛りだくさんで、実行する方々は大変だなと思いました。  
”エイ・ヤーと若さあふれて倉がたつ” みごとな川倉工、堤防上での感動的なシーンでした。
- ・ 来年の水防演習は、酒田の最上川で開催の予定です。

（穴戸 記）